

第一部 向丘高校全日制の歴史と回顧

向丘五十年間のあゆみ

1951 昭和 26 年度	1950 昭和 25 年度	1949 昭和 24 年度		1948 昭和 23 年度	
<p>第一期増築工事落成式挙行。 グランド南側へ校地拡張される。井戸・物置一棟設置。</p> <p style="text-align: right;">七・七 八</p>	<p>第三回文化祭</p> <p style="text-align: right;">一一・三</p>	<p>文京区駒込追分町一〇〇、元駒本小学校跡地に新設された校舎に移転する。</p> <p>真砂小学校より新校舎に定時制移転 新校舎落成式挙行。</p> <p>海の家を三浦海岸、山の家を梶井沢で実施。</p> <p>東京都立向丘高等学校と校名を変更する。</p> <p>宇野哲人 校長事務を免ぜられ、 都立上野忍岡高等学校校長土屋潤身 校長となる。</p> <p style="text-align: right;">七・二二〜三二 五・三〇 四・一八 五・一 一・二八 三・三二</p>		<p>東京都立向丘高等学校と東京都立本郷女子商業学校とを統合して 東京都立向丘本郷新制高等学校を開校する。</p> <p>阿部篤三 校長事務取扱を命ぜられる。 都立本郷実業専修学校 本校の定時制となる。主事長田広。</p> <p>阿部篤三校長 都視学官に転出。 東大名誉教授宇野哲人 校長事務取扱を命ぜられる。</p> <p>宇野校長着任式。東京新聞社取材に来校、NHKより異例の人事として放送された。</p> <p>はじめて逗子海岸で海の家、参加生徒三五名。</p> <p>生徒職員学校農園(京王線金子)の農作物試食会をひらく。</p> <p style="text-align: right;">四・一 四・一 五・二〇 五・一八 七・二一 一一・二三</p>	
<p>1957 昭和 32 年度</p> <p>都立雪谷高等学校教頭石章二郎校長に補せらる。 体育館建設準備打合せ</p> <p style="text-align: right;">四・一 七・一五</p>	<p>1956 昭和 31 年度</p> <p>田研式精神健康度診断検査施行。(全生徒を対象) 高体連野球大会で優勝 校長 宮本寛退職。</p> <p style="text-align: right;">六・二三 一〇・二六 三・三一</p>	<p>1955 昭和 30 年度</p> <p>第三期増築工事完了(旧三号館完成) 文化祭を定時制と合同で開催する。 第八回卒業式挙行(東洋大学講堂)</p> <p style="text-align: right;">七・一四 一一・六 三・九</p>	<p>1954 昭和 29 年度</p> <p>校舎全部の塗装工事。三〇万円を投じ、面目を一新する。 若竹寮落成披露会。 生徒会主催卒業学年送別会を東洋大学講堂にて行う。</p> <p style="text-align: right;">四・一五 一一・二〇 二・一六</p>	<p>1953 昭和 28 年度</p> <p>この年度より二期制となる。 第一期増築校舎(平屋建て 化学、生物、普通教室二)落成式 運動場拡張。校地周辺万年塀設置工事、講堂敷地の一辺も同様着手 校旗できる。</p> <p style="text-align: right;">四・一 七・四 一〇・一五 二・三</p>	<p>1952 昭和 27 年度</p> <p>標準服決まる。 校長土屋潤身 都立江北高等学校校長に転任。 都立目黒高等学校校長 宮本寛 校長となる。 校地内の家屋の名称を「若竹寮」と選定。 運動場整地工事終了。</p> <p style="text-align: right;">五・二一 一〇・一 一一・九 一・二二</p>

1964 昭和 39 年度	1963 昭和 38 年度	1962 昭和 37 年度	1961 昭和36年度	1960 昭和 35 年度	1959 昭和 34 年度	1958 昭和 33 年度
<p>学校所在地表示変更。旧文京区駒込追分町一〇〇番地より 文京区向丘一丁目一番一八号となる。 八・一 第一八回オリンピック東京大会開会式並びに開会式のリハーサルに参加。 生徒五〇三名がギリシャ・エクアドル九カ国の模範選手団を編成。 一〇・三 松澤教頭 都立大島高等学校長に補せられる。 一・一</p>	<p>校長石章二郎 青山高等学校に転任。東京都教育庁職員課より佐々木益男 校長に補せられる。 四・一 向丘・小石川・竹早三校合同美術展開催。 一・一六〜一八 第三期工事校舎竣工。天体観測室竣工。 三・三一</p>	<p>開校記念日記念行事挙行。(NHK解説副委員長館野守男氏の講演と竹内節子 氏のモダン・ダンス) 五・二〇 校舎増改築第一期竣工祝賀会 一・一七 門衛配置。生徒の外出早退扱いについて規制する。 二・二五 スケート教室(軽井沢スケートセンター) 三・一九〜二〇</p>	<p>ウエイトリフティング世界選手権予選を本校体育館にて行う。 九・二 校舎改築起工式 二・一三</p>	<p>都議会、教育庁、教育委員会に校舎改築促進の請願陳情を行う。 第一一回文化祭(全定共催) 一・一〜一・二二 全校マラソン大会(荒川戸田橋畔堤防コース) 二・二三</p>	<p>定時制主事 長田弘退職。 都立一橋高等学校主事相沢英夫 定時制主事となる。 四・一 体育館落成式。 一・一〇</p>	<p>郵政省用地買収成り、民有地との協会に石標設置 五・二六 運動場一部を民有地と入れ替え整地。コート開きを行う。 一〇・一一 第十回文化祭、全定共催で行う。 一・一八 定時制給食施設落成。 体育館建設開始。 三・十二</p>
1969 昭和 44 年度	1968 昭和 43 年度		1967 昭和 42 年度	1966 昭和 41 年度	1965 昭和 40 年度	
<p>一学年移動教室(軽井沢) 四・二三〜二五 一学年水泳教室(後楽園プール) 七・一五〜一七 向陵祭(文化祭) 九・二六〜二八 自主討論会や学年集会、生徒会評議委員会など開かれる。 一〇・二〇 クロスカントリー(多摩湖畔) 一一・一五 バリエード封鎖(一号館四階)その他は学校側で解除。 一二・一〇 封鎖解除 一二・二二 一部生徒が定期テストの受験を拒否して立てこもる。 一・二二</p>	<p>教育庁指導部より藤黒正明 校長に補せられる。 四・一 第五期工事竣工移転(生物室・保健室など) 四・二二 第六期増築工事(旧一号館四階)着工。 九・七 向陵祭(文化祭) 一〇・二二〜二四 クロスカントリー(多摩湖畔) 一一・二 予餞会(豊島公会堂) 一二・二 第六期増築工事竣工(図書室・生物室) 二・二七 二・二八</p>		<p>創立二〇周年記念式典挙行。 九・二二 若竹寮取り壊し作業。 一〇・一三 第五期工事杭打ち作業はじまる。 一一・一五 校内弁論大会。 一二・一七 予餞会(北区公会堂) 三・三一 佐々木益男校長退職。</p>	<p>入学者選抜九二群運営委員会開かれる。 一・二七 九二群応募者実数 男子七二八名 女子六一四名 二・九〜一〇 生徒会・クラブ部室竣工。 三・三一</p>	<p>定時制主事 相沢英夫 退職。 都立大泉高等学校教諭 芹川正虎 定時制主事を命ぜられる。 四・一五 本校PTA会長赤沢光吉氏、全国PTA協議会より表彰を受ける。</p>	

1974 昭和 49 年度	1973 昭和 48 年度	1972 昭和 47 年度	1971 昭和 46 年度	1970 昭和 45 年度
一 号館騒音対策工事竣工。 陸上記録会(北区神谷グラウンド) 向陵祭・体育祭 一 号館騒音対策工事(冷暖房工事)のため一年二クラス教室移動 九・二七、二九 一〇・九、一一・二五 二・一〇	向陵祭・体育祭 クロスカントリ 九・三〇、一〇・二 一一・五	都立南葛飾高校教頭金井量二 本校校長に補せられる。 陸上記録会(北区神谷グラウンド)はじまる。 合唱コンクール(共立講堂)はじまる。 向陵祭・体育祭 義太夫教室(二年・PTA希望者)はじまる。以後昭和五十年まで続く。 九・三〇、一〇・二 二・二八	歌舞伎教室(生徒・PTAの希望者参加)はじまる。 以後昭和六十二年まで続く。 文楽教室(生徒・PTAの希望者参加)はじまる。 以後昭和六十一年度まで続く。 向陵祭(文化祭) 音楽鑑賞会(共立講堂) 藤倉正明校長退職。 一〇・二、四 一〇・二〇 三・三一	安保廃棄のためのスト決議、全校ストの立て看板が立てられる。六・一八 六月より一月にかけて、断続的に校外反戦集会への参加呼びかけのビラが 配布されたり、立て看板などが立てられる。 向陵祭(文化祭) 生徒集会において生徒会のあり方、存続問題について討議される。 一〇・二四 約一〇〇名の生徒が出席。二・二六
1978 昭和 53 年度	1977 昭和 52 年度	1976 昭和 51 年度	1975 昭和 50 年度	
都立北高校校長菊野和夫 本校校長に補せられる。 新一年から従来の七クラスが八クラスとなる。 演劇教室 標準服決まる。 陸上記録会(北区神谷グラウンド) 水泳教室 一年(東京スイミングセンター) 向陵祭 合唱コンクール(虎ノ門ホール) 向陵祭 展示・音演 向陵祭 体育祭 クロスカントリ(狭山湖畔) 九・三〇、一〇・一 一一・二九	陸上記録会(北区神谷グラウンド) 新三号館竣工。 新三号館移転。 創立三〇周年並びに新三号館落成記念式典。 向陵祭 合唱コンクール 向陵祭 展示・音演 向陵祭 体育祭 原隆男校長退職。 六・八 九・九 九・二一 一〇・六 一〇・七 一〇・八、九 一〇・一〇 三・三一	陸上記録会(北区神谷グラウンド) 文楽教室 二年生全員参加行事となり、昭和六十一年度まで実施。 合唱コンクール(北区公会堂) 向陵祭 教育庁用地係並びに文京学園と二回の交渉をもつ。一〇・二八 一一・二四 ヒマラヤ杉、都立高島高校へ移植。 三号館増改築杭打ち始まる。 一〇・二、四 一一・二四 一二・四 一二・一六	金井量二校長 都立小松川高等学校長へ転出。 原隆男都立白頭商業高等学校長 本校校長に補せられる。 陸上記録会(北区神谷グラウンド) 文京女子短大島田副学長、所有地売却申し出のため来校。 都側と文京学園代表者との正式折衝が行われた。 四・一 六・一一 八・一五 一二・八	

1981 昭和 56 年度	1980 昭和 55 年度	1979 昭和 54 年度
<p>新体育館建設工事着工 映画教室 水泳教室(東京スイミングセンター) 向陵祭 合唱コンクール(虎ノ門ホール) 向陵祭 展示・音演 向陵祭 体育祭(北区神谷グランド) クロスカントリー(狭山湖畔) 都高校研究大会NHK研究委嘱公発表会 マイコンによる個人別学習の公開研究授業がNHKニュースで紹介される。</p> <p>七・二一〜一四 九・一〇 九・二六、二七 一〇・八 一一・二 一一・四 一一・二</p>	<p>各学年八クラス、全二四クラスとなる。 映画教室 体育館改築決定。着工五五年度末 竣工五六年度末の予定 陸上記録会(北区神谷グランド) 水泳教室(東京スイミングセンター) 向陵祭 合唱コンクール(虎ノ門ホール) 向陵祭 展示・音演 向陵祭 体育祭 クロスカントリー(狭山湖畔)</p> <p>四・一〇 五・一 六・九 六・一八 七・二一〜一四 九・二二 九・二七、二八 九・二九 一一・二六</p>	<p>映画教室 陸上記録会(北区神谷グランド) 水泳教室(東京スイミングセンター) 向陵祭 合唱コンクール(虎ノ門ホール) 向陵祭 展示・音演 向陵祭 体育祭 九月二八日の予定が雨天のため一〇月四日に延期。 さらに 雨天のため延期してこの日に実施 高校放送文化祭、テレビ、テーマにの部で放送部第1位 クロスカントリー(狭山湖畔) 降雨のため中止して狭山湖畔の散策に変更。 「夏目漱石を追って」</p> <p>五・一 六・六 七・二一〜一四 九・一九 九・二九、三〇 一〇・三一 一一・三 一一・二八</p>
1984 昭和 59 年度	1983 昭和 58 年度	1982 昭和 57 年度
<p>映画教室 合唱祭(板橋文化会館。本年度よりコンクール形式をやめる) 陸上記録会(北区神谷グランド) ギター部 全日本学生フェスティバルで最優秀賞受賞 向陵祭 体育祭 クロスカントリー(狭山湖畔) 昭和六十年から必異動の制度・定年制が導入される</p> <p>五・一 六・二〇 六・二二 九・一七 九・二二、二三 九・二八 一一・二八</p>	<p>多目的校庭(旧体育館跡地) 完成 佐々木益男元校長叙勲お祝いの会 合唱コンクール(体育館) 陸上記録会(北区神谷グランド) 校庭南側空き地(以前文京女子短大所有地)にマンション建設の挨拶あり。 校庭拡張用地として学校側が購入を希望していた土地である。 向陵祭 体育祭(台風により途中中止) マレーシア教育省教育次長コンピュータ施設見学のため来校 クロスカントリー(狭山湖畔) 共通一次試験 本年度より実施。本校も会場として使用される。</p> <p>四・一九 五・二八 六・七 六・一〇 六・一〇 九・二四、二五 九・二七 一〇・五 一一・二 一一・四、一五</p>	<p>映画教室 プール完成。プール開き。水泳部初泳ぎ。 陸上記録会(北区神谷グランド) 朝日新聞社マイコン個別指導取材のため来校。 合唱コンクール(新体育館) 向陵祭 体育祭(千駄ヶ谷東京体育館) アメリカミネソタ州教育長ロイド・ニールセン夫妻、マイコンによる個人別学習参観のため来校。 タイ文部省関係者学校参観のため来校。 クロスカントリー(狭山湖畔) 韓国教育開発学院学校視察のため来校。</p> <p>五・一 五・二九 六・八 六・二三 九・二四 九・二五、二六 一〇・九 一一・四 一一・二五 一一・三 三・一</p>

1987 昭和 62 年度	1986 昭和 61 年度		1985 昭和 60 年度	
<p>都立竹台高等学校教頭新城昇 本校校長に補せられる。</p> <p>映画教室 陸上記録会(北区神谷グラウンド) 合唱祭(板橋文化会館) ギター部 全日本ギターフェスティバルにて最優秀賞受賞。 向陵祭 体育祭 四〇周年記念式典挙行</p> <p>四・一 五・一 六・一一 六・二三 九・二〇 九・二六、二七 九・二八 二・七</p>	<p>映画教室 陸上記録会(北区神谷グラウンド) 雨天中止 合唱祭(板橋文化会館) 向陵祭 体育祭 二年修学旅行で農作業の体験学習を初めて取り入れる。島根県六日市町で六、七人のグループに分かれ各農家にお邪魔して農作業を体験する。その様子は日本テレビ等でユニークな修学旅行として放送される。一一・一一〜一四 クロスカントリー(多摩湖畔) 昭和二三年以来、向丘高校一筋に勤務した春山隆雄教諭退職。 平塚寛次郎校長退職。</p> <p>九・二七、二八 九・二九 六・二五 六・一九 五・一</p>		<p>映画教室 体操部高体連春季大会で優勝 陸上記録会(北区神谷グラウンド) 合唱祭(板橋文化会館) 体育祭 向陵祭 荒井弘教諭(国語) 交通事故のため逝去 クロスカントリー(多摩湖畔)</p> <p>五・一 六・七 九・一一 九・二六 九・二八、二九 一一・四 一一・四 一二・四</p>	
1991 平成 3 年度	1990 平成 2 年度	1989 平成 元年度	1988 昭和 63 年度	
<p>東京都立両国高等学校教頭池永武昭 校長に補せられる。</p> <p>映画教室 遠足(三学年・二学年) 合唱祭(板橋区立文化会館) 体育館屋根塗装工事 二号館一、四階内装工事 向陵祭(文化祭) 体育祭(本校校庭) 校舍改築事業が内定しプレス発表される。 LL教室工事着工。</p> <p>四・一 五・一 五・一 六・二〇 六・二五、 七・九、 九・二二、二三 九・二四 二・四 三・二五、</p>	<p>教頭山口千鶴子 東京都立小平高等学校校長となる。 東京都立神津高等学校教頭 河上一雄 教頭に補される。</p> <p>映画教室 陸上記録会 向陵祭(文化祭) 体育祭 クロスカントリー(狭山湖畔) 学校長 新城昇定年退職。</p> <p>四・一 五・一 六・一四 九・二三、二四 九・二五 一一・二七 三・三一</p>	<p>映画教室 陸上記録会 合唱祭(板橋区立文化会館) 向陵祭(文化祭) 体育祭 クロスカントリー</p> <p>五・一 六・九 六・二一 九・二三、二四 九・二五 一一・二九</p>	<p>映画教室 陸上記録会(北区 神谷グラウンド) 合唱祭(板橋区立文化会館) 向陵祭(文化祭) 体育祭(九月二六日予定が雨のため変更) クロスカントリー(狭山湖畔)</p> <p>五・一 六・九 六・二二 九・二四、二五 一〇・一三 一一・三〇</p>	

1994 平成6年度	1993 平成5年度	1992 平成4年度
<p>校長池永武昭都立小松川高等学校校長に転任 都立雪谷高等学校校長北村透 校長に補せられる。 映画教室 プレハブ仮設校舎の工事始まる。 遠足 合唱祭(板橋区立文化会館) 校舎改築・改修のため、仮設校舎に異動する。 向陵祭(文化祭) 体育祭(六義園グラウンド) 初めて飛行機を利用する修学旅行を実施する。 クロスカントリー(多摩湖) 入学選抜に推薦制度が導入される。 旧一号館・二号館 解体工事終了 埋蔵文化財発掘調査着手</p> <p>四・一 五・一 五・二 五・二六 六・二二 九・一 九・二四、二五 九・二七 一一・一五 一一・二五 一一・二六 二・八 三・七</p>	<p>遠足(一〜三年) 合唱祭(板橋区立文化会館) 向陵祭(文化祭) 体育祭(夢の島陸上競技場) クロスカントリー(多摩湖) 七七名の大量二次募集を行う。</p> <p>五・二七 六・二三 九・二五、二六 九・二八 一一・二四 三・一〇</p>	<p>映画教室 L教室設置、使用規定決定。 遠足(一・二年生) 合唱祭(板橋区立文化会館) 四週八休制が導入される。 これ以後、第二十曜日が休日となる。 向陵祭(文化祭) 体育祭(夢の島陸上競技場) クロスカントリー 新カリキュラム案・土曜授業の振替案を決定。 グループ合同選抜最後の入試が行われる。</p> <p>五・一 五・一三 五・二八 六・二二 七・四 九・五 九・二六、二七 九・三〇 一一・二五 一一・二〇 二・二四</p>
1997 平成9年度	1996 平成8年度	1995 平成7年度
<p>東京都立小岩高等学校教頭北村正生 校長に補せられる。 学校週五日制への移行措置で、第二・第四土曜日が休業となる。 映画教室 遠足(一〜三年生) 合唱祭(板橋区立文化会館) この年で合唱祭は打ち切りとなった。 体育館改修工事が始まる。 体育祭(六義園グラウンド) 向陵祭(文化祭) クロスカントリー(多摩湖) 新校舎改築工事竣工。 仮設校舎からの引越越し。生徒自宅学習。</p> <p>四・一 四・一 五・一 五・一九 六・二四 七・九 九・一七 九・二七、二八 一一・六 一一・三〇 二・九、一五</p>	<p>映画教室 遠足(一〜三年生) 合唱祭(板橋区立文化会館) 体育祭(六義園グラウンド) 向陵祭(文化祭) 初日は台風のため途中打ち切り。 クロスカントリー(多摩湖) 新標準服が決定される。 北村透校長定年退職。</p> <p>五・一 五・一七 五・一九 九・一八 九・二二、二三 一一・八 三・二五 三・三一</p>	<p>映画教室 遠足(一〜三年) 合唱祭(板橋区立文化会館) 体育祭(六義園グラウンド) 向陵祭(文化祭) 新校舎改築工事着手 埋蔵文化財発掘調査完了。縄文時代前期の遺物、江戸時代の地下式土倉、噴砂跡等、多数の遺構が発見された。 クロスカントリー インターネット利用開始 営団地下鉄南北線 駒込〜四谷間開通。本駒込駅開業。</p> <p>五・一 五・一九 六・二二 九・一八 九・二三、二四 九・二七 九・三〇 一一・二四 一一・二四 一二 三・二六</p>

向丘この十年間のあゆみ

1999 平成 11 年度	1998 平成 10 年度
<p>入学式 四・九 映画教室 五・一 体育祭(六義園グラウンド) 五・二八 向陵祭(文化祭) 九・二五、二六 学校説明会 一〇・二 修学旅行(二年 長崎・熊本方面) 一一・九、一二 遠足(一年 横浜・三年相模湖ビクニックランド) 一一・一〇 学校説明会 一一・二〇 クロスカントリー(多摩湖) 一一・二六 卒業式 三・七</p>	<p>入学式(今年度の新入生より新標準服着用始まる) 四・九 映画教室 五・一 体育祭(六義園グラウンド)合唱祭が前年度で中止になったため、 これまで九月に行っていた体育祭を六月に実施。 六・一二 新カリキュラム決定。 七・一 向陵祭(文化祭) 九・二六、二七 外構グラウンド整備工事着工 八・二五 校舎落成・創立五〇周年記念式典挙行 一〇・一〇 修学旅行(二年・長崎・熊本方面) 一一・三、七 遠足(一年 夢の島・三年 デイズニールランド) 一一・四 クロスカントリー(多摩湖) 一一・一七 学校説明会 一一・二二 外構グラウンド整備工事竣工 一一・二七 卒業式 三・六</p>
2001 平成 13 年度	2000 平成 12 年度
<p>入学式 四・九 映画教室 五・一 体育祭(六義園グラウンド) 五・二五 向陵祭(文化祭) 九・二二、二三 学校説明会 一〇・六 遠足(一年 横浜方面・三年 デイズニール) 一一・九 映画教室(二年) 一一・九 クロスカントリー(多摩湖畔) 一一・一五 学校説明会 一一・一七 修学旅行(二年 沖縄方面) 一一・九、一二 卒業を祝う会 三・二 卒業式 三・六 校長 北村正生 定年退職 三・三一</p>	<p>機械警備開始。 入学式 四・一 映画教室 四・一一 体育祭(六義園グラウンド) 五・二六 向陵祭(文化祭) 九・二三、二四 学校説明会 一〇・七 クロスカントリー(雨天のため中止) 一一・二 修学旅行(二年 沖縄方面) 一一・二五、二八 遠足(一年 横浜方面・三年 デイズニールランド) 一一・二六 学校説明会 一一・一八 卒業式 三・七</p>

2003 平成 15 年度	2002 平成 14 年度
<p>この年度から「主幹制度」が導入される。</p> <p>入学式 四・一</p> <p>この年の入学生から新教育課程。総合的な学習の時間はじまる。 四・八</p> <p>映画教室 五・一</p> <p>体育祭(六義園グラウンド) 五・三〇</p> <p>向陵祭(文化祭) 九・二七、二八</p> <p>学校説明会 一〇・四</p> <p>遠足(一年 鎌倉方面・三年 デイズニールランド) 一〇・二七</p> <p>修学旅行(二年 沖縄方面) 一〇・二八、二九</p> <p>クロスカントリー(虹の広場 荒川河川敷 雨天のため中止) 一一・二〇</p> <p>学校説明会 一一・二二</p> <p>卒業証書授与式 三・二二</p>	<p>都立明正高等学校校長石井隆夫 校長に補せられる。</p> <p>この年度から完全週休二日制実施</p> <p>入学式 四・一</p> <p>映画教室 四・九</p> <p>体育祭(六義園グラウンド) 五・一</p> <p>向陵祭(文化祭) 九・二八、二九</p> <p>学校説明会 一〇・五</p> <p>修学旅行(二年 北海道方面) 一〇・二七、三〇</p> <p>遠足(一年 相模湖・ピクニックランド・三年 デイズニールランド) 一〇・三〇</p> <p>学校説明会 一一・二六</p> <p>クロスカントリー(多摩湖畔) 一一・二一</p> <p>工事のため多摩湖畔コースの使用はこの年までとなる。</p> <p>推薦入試。この年から学区制が撤廃される。また、調査書が絶対評価から相對評価に変わり、自己PRカードが導入される。</p> <p>卒業を祝う会 一・三〇</p> <p>卒業式 三・七</p> <p>卒業式 三・二二</p>
2005 平成 17 年度	2004 平成 16 年度
<p>入学式 四・七</p> <p>映画教室 四・三〇</p> <p>体育祭(六義園グラウンド) 六・四</p> <p>向陵祭(文化祭) 九・二五、二六</p> <p>修学旅行(二年 沖縄方面) 一〇・四、七</p> <p>遠足(一年 相模湖・ピクニックランド・三年 デイズニールランド) 一〇・</p> <p>授業公開・学校説明会 一〇・一六</p> <p>クロスカントリー(荒川河川敷 虹の広場) 一一・一八</p> <p>学校説明会 一一・二〇</p> <p>卒業式 三・一一</p> <p>入学式 四・七</p> <p>映画教室 五・二</p> <p>体育祭(六義園グラウンド) 六・三</p> <p>大島南高校夏季講習 七・二五、二九</p> <p>向陵祭(文化祭) 九・二三、二四</p> <p>修学旅行(二年 長崎・熊本方面) 一〇・二、五</p> <p>遠足(一年 横浜方面・三年 デイズニールランド) 一〇・一五</p> <p>授業公開・学校説明会 一〇・一五</p> <p>ボランティアの日 一一・二</p> <p>クロスカントリー(荒川河川敷 虹の広場) 一一・一七</p> <p>授業公開・学校説明会 一一・一九</p> <p>卒業式 三・一四</p> <p>卒業式 三・三一</p> <p>校長 石井隆夫 定年退職 三・三一</p>	<p>入学式 四・七</p> <p>映画教室 四・三〇</p> <p>体育祭(六義園グラウンド) 六・四</p> <p>向陵祭(文化祭) 九・二五、二六</p> <p>修学旅行(二年 沖縄方面) 一〇・四、七</p> <p>遠足(一年 相模湖・ピクニックランド・三年 デイズニールランド) 一〇・</p> <p>授業公開・学校説明会 一〇・一六</p> <p>クロスカントリー(荒川河川敷 虹の広場) 一一・一八</p> <p>学校説明会 一一・二〇</p> <p>卒業式 三・一一</p>

2007 平成 19 年度	2006 平成 18 年度
<p>入学式 この年度から必修教科「奉仕」が入る（一年生で実施）</p> <p>映画教室 体育祭（六義園グランド） 大島南高校夏季講習 向陵祭（文化祭） 遠足（一年 横浜方面・二年 デイズニールランド 三年 デイズニール）</p> <p>授業公開・学校説明会 ボランティアの日 創立六〇周年記念式典</p>	<p>都立鷲宮高等学校長 戸谷賢司 校長に補せられる。</p> <p>入学式 映画教室 体育祭（六義園グランド） 大島南高校夏季講習 向陵祭（文化祭） 修学旅行（二年 沖縄方面） 遠足（一年 横浜方面・三年 デイズニールランド） 授業公開・学校説明会 体育館屋根アスベスト除去工事着工 ボランティアの日 クロスカントリー（荒川河川敷 虹の広場） 授業公開・学校説明会 体育館屋根アスベスト除去工事竣工 卒業式</p>
<p>四・七 五・一 六・一 七・二三〇二七 九・二三〇二三 一〇・五 一一・一三 一一・二 一一・二〇</p>	<p>四・一 四・七 五・一 六・二 七・二四〇二八 九・二三〇二四 一〇・四〇六 一〇・四 一一・一四 一一・六 一一・二 一一・一六 一一・一八 一二・二 一二・二 一二・二 一二・二</p>

向丘 この十年のあゆみ

出席者(敬称略)

教頭	清水 ゆかり	(平成二二)	二四	在職	都立深川高校副校長
国語	大和田 邦明	(平成一〇)	一六	在職	都立工芸高校教諭
国語	藤本 晋哉	(平成一一)	一七	在職	都立杉並総合高校教諭
地歴	北原 淳弥	(平成八)	一六	在職	都立広尾高校教諭
数学	矢野 忠夫	(平成七)	一四	在職	都立城東高校教諭
理科	南島 正重	(平成九)	一五	在職	都立小石川高校教諭
保体	青田 雅樹	(平成二二)	一七	在職	都立足立高校教諭
英語	棚橋 昌代	(平成五)	一五	在職	都立三田高校嘱託
英語	河村 幸子	(平成七)	一五	在職	都立南葛飾高校教諭
養護	山本 詳江	(平成八)	一六	在職	都立白鷗高校嘱託

本校より

校長	戸谷 賢司	(平成一八)	〇		
副校長	藤原 成憲	(平成一九)	〇		
数学	東海林 憲明	(平成一四)	〇		
数学	小林 浩	(平成一五)	〇		
英語	大出 陽子	(平成一五)	〇		
理科	工藤 靖	(平成一七)	〇		編集委員
英語	吉田 真紀	(平成一五)	〇		写真
国語	大塚 宇	(平成一七)	〇		テープ起こし
国語	原田 亮	(平成一三)	〇		編集委員

平成十九年七月二十四日 十四時〜十七時



司会 本日はお忙しい中をお越しいただきましてありがとうございます。ご案内のように、六十周年を迎えまして、みなさんに思い出を語っていただき、なおかつ向丘の将来への思いを語っていただきたいと思っております。最初に校長からご挨拶を頂きたいと思っております。



校長 本日は暑い中お集まり頂きありがとうございます。本校も六十年という選歴を迎えるに当たって、今まで本校を支えていただいた先生方に深く感謝したいと思っております。歴史については私はまだ二年目なものですから過去のものを読ませていただいて、いろいろ苦労があったものと承知しております。特に本校の場合は改築が歴史の中で大きな部分を占めていると思っております。この十年は改築関係は体育館のアスベスト工事一箇所だけということで、そういう意味では改築から少し離れたのかなと思っております。この十年を思い起こしますと、都立高校改革が平成九年に発表されてやはり都立高校改革の中の十年であったのかなあという思いもしております。それから生徒が減ってしまったということ。中学校卒業生徒が昭和六十二年ぐらいをピークにして平成十年ぐらいには七万人くらい減ってしまった。それから今日に至るまでは二万人くらい減少している。学区制がなくなったりして先生方もいろいろと苦労されている。向丘の中でできごと、先生方がご苦労なさ

たこと、そういったことを聞きながら、今後の向丘高校の方向性についてご示唆をいただければありがたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。印象に残っていること

原田 まず、向丘で一番印象に残っていること、とにかくの座談会で絶対に言いたいことを何なりとおっしゃっていただきました。おっしゃってあります。南島 改築のプレハブ時代から新しい校舎に入るところに生徒がどんどん変わっていく時代だった。私が来たときはまだプレハブの校舎で、ちよつと生徒とは思えないような（格好をした）、繁華街で会ったような、気持ちのいい子たちなんだけれども見かけでは高校の中ではちよつと、だった。話してみるとときさくな子供たちで、格好と中身がずいぶん違う感じがした。



矢野 平成五（一九九三）年に七七名の大量の二次募集を行って、その生徒が二年生の時に赴任してきました。その当時は二次募集を行わないようにがんばって学校回りをしようということが行われていたのを記憶している。実際に新校舎が建って人気が出てきて、一番記憶にあるのは推薦で女子の倍率が二十倍を越えた、というのが一番の印象で、あのときに、どうやって面接をしたらいんだらう、と悩んだ記憶がある。

北原 南島先生と同じで、私服で来てる学校って初めてで、見た目と中身がちがうな、という体験は初めてしました。見た目は夏とかは本当にすごいな、と思えました。生徒一人一人はすごく素直で、二回担任を持って、卒業した子たちと未だに交流がある。一昨日もテニス部の子たちと一緒にテニスをしたりしていた。もうちよつとがんばれるようになっていくにはまだまだで、そのへんができるのもつとよくなっていくのかなと思う。

藤本 私が来たのは五十周年が終わった次の年。なんていい学校なんだろうと思った記憶がある。格好は派手だけれども、まあこんなものかな、と思った。あと、勉強はしないな、と思った。（入試の）倍率がすごく高かったから、希望の大学にはいったから燃え尽きる、というのは分かるんだが、希望の高校に入ったからもうなんか満足している、というのを何人かから聞いた記憶があります。もつと勉強すればできるのに、高校に入ったら遊ぶんだ、と決める生徒がすごく多かったです。一人一人はすごくいい生徒だけれども、人数が集まると、校舎の改築というのでかくて、なんかそこで切れている感じがする。文化祭も今までこうやってきた、というのがなんにもなくて、一からいろいろつくっていったという気がする。体育祭も実行委員が仕切ってやりだしたのが平成一一（一九九九）か平成一二（二〇〇〇）年ころ。文化祭も企画書に対してプレゼンテーションを実施するのも、あれもちよつと南島さんとかがいた平成一〇（一九九八）年ころじゃないか。ちよつとどんな意味で整備して、この時期にはこれをやる、というのができたのがこのころ。

あと個人的には芸能人のKが入学したのは私のおかけなんで、たまたま日曜日に中三の時に学校見学に来て、サッカー部の指導でたまたま玄関にいて、やさしく対応したら、お母さんとKが「いい先生じゃない」ということになって、〇〇学園をやめ、うちに来た。

大和田、新校舎ができて新しい学校がはじまる、という時代に私は来た。一九九八年になるのだが、今年度の新入生より新標準服がはじまる、と書いてあったりして、そういうものもできあがったりして、向丘で昼休みに立ち番をしている、ということを知っていたりしなかったのだが、おそらく新校舎になって立ち番が始まったんじゃないか。あと、倍率が上がったのは新校舎のことだけじゃなくて、何年か前に南北線が通るようになったのも大きいのではないかな。それで五十周年ということであったのだが、当時はクロスカントリ―は多摩湖まで行って走っていた。運動場があまりなかったの、体育祭は六義園でやるとか、という形。あと生徒部と担任をやっていた関係でいろいろ事件もあったが、

原田 大和田先生がお書きになった「校舎をきれいにしよう」という標語はまだ掲げてあります。

清水 私が一番印象に残っているのは、さきほど矢野先生がおっしゃったように、入選の倍率がかなり高くて、平成十五年の時ですか、女子が一一・三倍、男子の方も九・四倍というような倍率だった。そのくらい中学生がたくさん来て人気のある学校だった。推薦も一次も倍率が高かったので先生方もずいぶん大変だったと思うんですよ。面接も朝九時から

四時からいまで行つたし、学力検査の方もほとんど休み日もなく、先生方もまったく文句も言わずに、一生懸命やって、あれだけ大変な入試をやったというのが一番印象に残っている。

青田 それで思い出しましたけれど、一日中同じ質問をしているわけですよ。個人面接で、ほんとに気の遠くなるような質問をずうっとずうっとしていったようにちようど変わり目でいろいろと変わってきた時期でもあって、体育科なんかでも行事を、体育祭でいえば（私が来たころは）六義園にいったころだった。北原先生や矢野先生の時代あたりでもって、九月から六月に変わって、そして六義園になってという状況で、それと多摩湖のクロカン、これは前任の体育の先生方が「もうマラソン大会はやめるから」って言って、「たいへんだから今年からやらないようにするんだよ」という話を聞いていたんだけれど、回数をみたらずうっと何十回ってという歴史がある。わたしが来たときにやめちゃったら申し訳ないな、と思つて今年だけちよつとやってみようか、ということをやつて、結局多摩湖ができなくなつて、こっちの荒川にもつてきた。コースの決定も尻にたこをつくりながら自転車で行つたり来た。りしてどのコースにしようか、つてことがあった。ただ、多摩湖はよかったですね。あそこは歩いて気持ちいい。今マラソンやっている学校は少ない。このへんではうちだけではないか。いろいろなことを変えていったというか、変えざるを得なかった時期だった。



棚橋

来た当時は汚い校舎で先生たちもまいいつてた。なんとかこの現状を

打開したい。それと高校再編の波もきている、という中で、生徒集め、学校を新しくしよう、という気分が全員の中にしみこんでいた。伝統もあつ

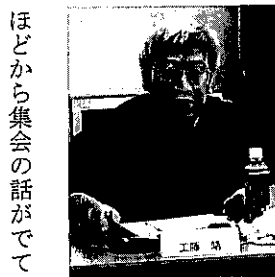
たんでしようが、新しく作り上げていこう、係りになった先生方が、それぞれの分野で考えていった、というのはやりがいのあることだった。プレハブで三年間過ごす生徒を呼ぶときに何で呼ばばよいか、そこで文化祭を盛り上げよう、ということ、運良くプレハブも古い物だった。すぐ壊れて、土台の間に穴があいたりしていた。文化祭はいろいろやるということも考えた。音楽の荒井先生が合唱祭を一生懸命にやっていた、たいへんな生徒なんだが、ちよつと遊びを込めながらも歌を歌わせていた。その後新校舎になってから、みなさんが今おっしゃったように、すべてが新しくなった。新しい校舎だけじゃいい生徒は来ないだろうということも考えたことだと思つてですね。学校説明会では「どの子も主役になれる学校」を生徒部として売り物にした。いろいろな経験をさせてあげたい。いろんな行事をそれぞれの先生が考えてマニュアルができていった。生徒会もきわだつてすぐれている。自分たちで考えてやっている。PTAも側面から応援していた。十四階建てのマンションの反対運動とか。

山本 プレハブの時に異動して引越しをしたんで



すけど、プレハブの時は設計図ができあがっていて、最初に面接に来たとき、場所が分からないでぐるぐる回っていると、すごい服装の生徒がたくさんいて、「わあ、すごいところに来たなあ」と感じて、面接も終わり、プレハブに移動してきた。北原先生と二人だけだったので、異動が。プレハブの校舎を歩くとキョキョキと音がして、1年がすぎて引越してみたらA棟とB棟があつて、A棟はびつこびかでB棟は…。そのころ、制服の話が出ましたが、制服委員会みたいなのがあつて、だいぶ苦労されていたみたいなんだけれども、私としてはとても気に入っている制服で、すばらしくてよかつたなあと思つた。最初に話した「わあ、こういう生徒たちがこの学校にはいるんだ」と思う生徒が一変して靴もびかびかで、標準服がともまばゆく見えた記憶があります。それから、新校舎になったときにインターネットがどこの部署にも配置されて、保健室の中にも配置され、ただ、そういう機械がきてもほとんど分からない私は、生徒にいろいろ聞いたり担当者から来て私たちに教えてくれるというところで、インターネットの初期がすごく思い出に残つております。

大出 今までの先生方の話を聞いてあ、そうだよ、



と思うのは、入試は私がある前の年に倍率がすごく高かつたものですか、いろいろんな要因があつて倍率自体はだいぶ減つてはいるんですけども、本

当に、最初に来た年は推薦入試のときも目が回るよつた覚えがあります。生徒は個人個人はお話にあつたようにすごく気持ちのいい子が多いですけれどもやっぱり集団になると甘えがあるのか、わがままがでるところがあるのが、気になるところです。
東海林 私が来たときには、「始業式がすごいな、誰も話し聞いてないじゃないか」という学校だった。なんとかしようよ、ということ、今は、この前の終業式では、ちょっとふらふらしているのがあるが、ほとんどが言えは本当にシーンとするような、そういう誰とも話さない集会になつている。前と比べるとびつくりする。あとは授業中、何年か前からは携帯とかきちつと言つてきているので効果がでてきている。運営委員会などで近所の人からだいぶ前よりは落ち着いてきていると言われている。生徒も安定してきており、これも諸先生方の努力のおかげかと。



工藤 改めて向丘の良さを認識したいと思つていま。まだ三年目ですが、向丘高校の生徒の色というものはつきりしているし、各学年によつても色がいろいろあつて、当然これは担任の先生方の個性。さき

は自分は八十五点をつけた。待つていれはこつちを向いてくれる、静かになつてくれる。ここまで向丘が変つてきた。三年前来たときはほんとうにざわざわと落ち着かない集会だつたですけれども、先生方が本当に真剣に指導してこまできた。これからのいろいろんな面で改善されていくと思う。向丘がよりよい方向に行くものと思つています。

ここで河村先生登場。
河村 平成七年から九年間いたんですが、その間は二つの学校で勤務したという印象があります。最初はプレハブ校舎で職員室に座つていても誰かが外を走つたり階段を駆け下りるとがたがたがた揺れて、「あつ地震だ」と思いながら、あ、プレハブだからだと気がついて。だんだん慣れてきたんですけど。矢野先生の前に改築委員の鳥居先生という先生が、しよつちゆう穴を修理して、ただクレーンだけはあつてそれは嬉しかつたですね。二時間目と三時間目の間にHRがあつたんですね、朝の。そのころ、休み時間が長いとHRはどうしてるんだらうと思うんですけども、外にぞろぞろ出ていって、でまあ、悪いこともしたりして、いいのかな、と思ひながら見ていました。生徒部で三年目でしたか、引越しの時なんですけど、「おおとり」の担当をさせていただいたときに、当時の生徒会長が書いたのが「向丘プレハブ高校」というような題名だつたんですね。それに一緒につけようということ、写真を撮つたんですよ。そのときにできたばかりの新校舎のつべんにあがらせていただいて、プレハブ校

は自分

は自分

は自分

舎の写真を撮らせていただきました。そのとき新校舎に入って、すごいな、きれいだな、りっぱだなと思つたのをよく覚えています。新校舎になつてからは倍率も上がったとか、違う学校になつたような、その中で教務で学校説明会の仕事をしたり、体育館に椅子が足りなくなるんじゃないか、ぐらいい。推薦の面接の時に多目的室から面接室につれていくんですが、何回も何回も上がったりがつたりで目が回りそうに……。旧校舎の時から記憶している生徒は明るくて元気な子たちが多いな、と思ひました。学年を持つて三年間楽しく過ごさせていたいただきました。

授業のこと、学校行事のこと、部活のこと



南島 地学は受験には関係ないということもありま

すし、好き勝手なことを地学室でやってみました。プレハブから新しい校舎になるっていうところが、勉強も少しやつてきた子たちが入ってきた。いろいろめんどうくさい地震の作業とかやらせているときに、文句言つてましたけどね。今受験とかでカリキュラムとかも考えたりするご時世ですけれど、いろいろやらせてみるとなんでもできる子たちで、一人、振り子で重力を計る実験とかそういうことをやらしていたら、理科系の大学へ行ったとき「こんな実験をやった高校は普通は無い」ということを大学の先生に言われたといつて喜んでいました。勉強する機会をね、どんどん

与えていくと本当にのびる子たち、興味関心を持つ子たちがいたんだと思います。なかなか勉強に向かない子たちも多かつたんですけど、決して妥協しなくともいい子たちだったというふうには思ひます。プラネタリウムなんかも自由にプログラムを作つて文化祭で小学生相手に一生懸命説明してやつてくれ。めんどうくさい、大変だと口では言うんですがやつてくれる。見かけと中身が全然違う。

北原 最初来たときは世界史を四単位でやつた。ちようど過渡期で、四単位は中間の試験とかはかなり膨大な量になつてしまふ。ちようどカリキュラムの検討委員会があつて、これじゃ世界史は無理でしょうという話をした記憶がある。文系の子は二人でもつて四単位、理系は二単位で、生徒も興味があるよくな話を持ち出すと非常によく聞いてくれる。印象に残つているのは、どの授業もそんなんですが、雑談ていうか、雑学ですね。そういうことに対する知的好奇心もあつて聞くんですよ。そしてよく覚えてるんですけど、肝心なところを覚えていない。試験前の勉強がちよつと我慢が足りないのかな、と思ひのですけれど。授業中の態度ですが、やつているとき工夫すれば一生懸命聞こうとする姿勢がみえる。ガオカで九年間やつてきて授業が成り立たないつて思つたことはないし、行くのがめんどうくさいつて思つたことは正直言えはあるんですけど、行くのが本当にいやだと思つたことはない。そのへんは結構すなおに、こちらが、がたがたしていて力が抜けて授業に行つたりすると、生徒の反応がそのとおりになる。勉強で記憶に残つているのは、東先生が

異動されるときの離任式で「君たちは勉強しなくなつた」とものすごく言つたこと。だけど、二回担任を持つて九年間いる間に、ここの生徒が、というわけではないんですが、勉強しなくなつたな。もうちよつと前は、やれ、と言われて一週間くらい前から始めていた。できない子は三日前くらいから。今の子は三日くらい前からできる子はする。やらない子は本当に最後までやらない。でも、反応は素直ですね。向丘の生徒は。

青田 体育はねえ、やんなかつたですねえ。

私もうちに来たときは三校目だったんですけど、これだけ体育施設のない学校は私はみたこともない、いろんな学校を回つてきてね。テニスコート五面がうちの一番広いグラウンドというか校庭じゃないですか。ほかのもつとひどいものもあるというのは聞いて知つているんですけど、ここで体育が本当にできるんだらうか。で、砂場もないじゃないですか。砂場のない学校というの私も最初は初めてなんです。だから幅跳びの選手が大会に出たときにわざわざ六中まで行つて砂場を借りて幅跳びの練習をしたことがありました。でもそれ一回きりでした。あとはいようがないからマットを敷いて練習しました。私たちはグラウンドの種目が専門なので、狭い敷地というか、グラウンドのない学校ということでは残念な気持ちがあつたし、体育の授業に関してはすごく苦労しましたね。

棚橋 私たちのいる間に習熟度が入つたんですね。英米文化という、映画を見ながら英語に関する英語圏の話題、映像を見ながらそれについて論文と

いうかレポートを書く。という授業でした。英語の楽しさをこころは教えられる。



河村 教科書を中心にはやって行くんですけども、それ以外のものをちよつと言ったりするととても喜ぶ生徒が多かったです。青田先生の三年生のクラスで、クリスマスカードを英語で書きましよう、と

いうのがあって、木を折り紙で折ってカードにしたとかみんなすごく喜んで。あとは、歌を聴いたりとか。棚橋先生と分けて持っていた英文読解、リーディングだったですが、インターネットで自分の興味のある国を調べて、政府の観光局のページから印刷してきて、それを自分で読んで新聞のようなレポートにしましよう、というかなりレベルの高いものが出てきてとても印象に残っています。うまくモチベーションというか、きっかけを与えてあげると力を出せる子が多い。

棚橋 現役の先生に言いたいことは、こころでいろいろなおことをやっておいた方がいいよって思います。本当にめぐまれた環境です。

矢野 数学は習熟度やったけど、そんなによくもないしなあ、やつぱりこころは文系の学校なのかなあ。社会に出ていくのにこれくらい計算はできておいた方がいいだろう、ところまでだったかなあ。やつぱり受験と言ふところまでちよつと持ってこられなかった。教員Cありましたけど、教科書を終える

だけで精一杯、それ以上に入試でこうしよう、ああしようて言うふうなところまでいかなかったのが現実でした。単位さえ危ない子が多かったたので、その子たちはどうやって教えたらいいんだろうといううなことが大きかったかなあ。数学はあんまり印象になくて、この学校でインターネットですか、とにかくパソコンが自由に使えるところがある。そこが大きくて、それがほかの学校よりも進んでいた。コンピュターでいろんなことができるというのが大きかったですね。美術で使ったり音楽で使ったり、社会・理科も使っていたし、もう至るところで使えたというのがこの学校の一番。新校舎ができてすぐそういうことができたから、そういう面では先に進んでいたかもしれない。今は情報という授業が入っているの、どこの学校でもパソコンができるようになりましたけれども、その当時はそういうことはなかったんで、この学校はメールまでできましたよね。向丘はすごく進んでいた。ホームページもすごかったですね。どっかの業者に頼んで、なんていうことをしないで、この学校でかなり作れたし、そういう面で授業では役に立った。鳥居さんとか、清水さんが新校舎になったばかりの校舎で作業服姿で天井入って、配線からなにから全部やって、つなげてくれた。清水さんがいらっしやらなくなつて、ぼくが引き継ぐのに困つたなあというところに、東海林さんが現れて。色んな人が熱心によつていく雰囲気があったんじゃないかな。

藤本 けつこう、何でも自由。何やつても許してくれる、ていうところがあったんで、非常に勉強になりました。あと、AOとか小論文の量が異常に多くて、わらわらと次から次へと出てきて。本当に夏休みとか、土日とか。一番笑ったのは、今日の消印有効と言ふときの午後先生すみません、つて持ってきて。それを二人でやつて、十一時くらいまでかかつて。受かりましたけれどね。



大和田 向丘で私がやりたかったのは、漱石の「こころ」。やつぱり、何と

いうか、高校ならではものをやりたかった。うちの生徒の場合は推薦が多かったから、小論文の対策で国語科の先生はみんな大変だな、という感じがあった。「おひとり」なんですけど、ちよつと五十周年を記念して、アンケートをまとめたものがあるんですけど、それを今見ていて、八三、一パーセントが高校生活に満足している。その理由のダントツが友人関係なんです。二番目がクラス、三位が校風、四位が校舎。で、先生の授業は併せて六パーセントというような実態がでています。高校生活であなたが一番大切にしているもの次のどれですか、といつても友人なんです。友達関係をどうするのかっていうのが、この学校の生徒にとつては一番大切なかな。それでいてあなたが一番言いたいことがあるのは次のどれですか、いふと一番多いのが授業なんです。授業が全体の二一、一パーセントで一番多くて、具体的に授業についていたことがいろいろ書いてある、という状況があった。そ

れでいて彼らは勉強を家でしているのか、というのと、あなたは家で何時間ぐらい勉強していますかというのに対してほしい一時間ぐらいというのが一四・四パーセントぐらいで、あとはほとんど勉強していない。大学は推薦で受かればいい。ほどほどのところまで高校生活を行って友達がいれば、楽しい高校生活を送ればいい、というのが向丘の基本的なところなのかなあ、という感じがします。

学校行事

榎橋 生徒会は本当にすばらしかったと思います。

藤本 企画書をきちんと作って公の場でプレゼンテーションをして、選ばれるのは、なかなかいい。六月くらいにやるから結構早い時間に考えなきゃいけない。すでにプレ文化祭じゃないけれども、ひとつの盛り上がりになって、そのかわり落ちたクラスはかなり考えなければならぬ。あと、生徒も実は色んな人が隠し持っていて、今までにやんなかったけれど、最後だし、ちょっとやってみたいんだけど、といって始まったのが和太鼓だった。いい方にころがりだすと生徒もやってみようか、となって伝統というとおおげさだけれどまた来年も、となってきた。私は文化祭では、正直、マニュアルも何にもなく、私は口が裂けてもこの学校が、前の学校はとか言わないでおこうと思ったのですが、これだけはこの学校はいつだってこうなっているんだ。まあ、いろいろの人が担当になって、いろいろな人が手を加えたりして…。

青田 子供たちがいろいろ企画を出してきて、うま

く引つ張っていくと、こちらが手を出さなくても、ある方向に向かって動いていく。一年目二年目はひどかったですね。三年生になったときにようやく、協力しあっているんなことをやりながら、大賞をとることができた。うちのシステムは文化祭はいいですね。ある段階でもってすごく練りますよね。自主的に動くという



形が自然とできていく。
榎橋 文化祭で今でも垂れ幕と門は？
青田 あれはいつごろから？
藤本 門はねえ、あまりにも寂しかったので、門に

力をいれるか、というの

で木村さんが…。組立と

解体はそのときから。そ

れまでは門はちよつと押

すともう…。とりあえず

その流れに乗ってクラス

の企画書とかもできてき

て。美術の太田さんがこの学校に来て、美術部で垂

れ幕ががんばろうか、という

の時に門らしいものはやっ

ていたんですよ。新校舎

になって、きれいな話にな

るといねという話をしたと

きに、じゃあ、パイプが

あるから門らしいものを作

ってみようか、ということ

になって、始まった。パイ

プで組み立てて長さを測

って、ベニヤを張って。

プレハブから移ってくる間にすべての行事を見直してきたんですよ。合唱祭をなくして。二学期に文化祭があつて、体育祭があつて修学旅行があつてクロスカントリーあつて、二学期につまっているから、学校がこつちに来るんだから行事を見直そうという中で、門はプレハブの時にはないから、門の飾りというものがいい。新校舎になって、門がちゃんとできたのだから、門をちゃんと作つたらどうかと。一つの行事に三年くらいかかりながら試行錯誤を繰り返しながらみんな来ている。

北原 体育祭は部活のキャプテンがみんな集めて動かして、それが体育祭実行委員。すべての仕事を部に割り当てていました。

文化祭のプレゼンが始まったのも(改築から)四、五年たつてからですよ。最初はそんなになかったです。食品とかだんだん増えてきてこのまま無制限ではということで職員会議にも出て、じゃプレゼンをとるということになった。

矢野 定時制と一緒に文化祭ができたのはいい。定時制との交流がほとんどなかったところで、定時制とのつながりができるようになったのは大きかったかな。



山本 文化祭で、どつちかというと食品に流れ込みたい、というのがあつて、それで生徒全員がクラスで結集するから、調理の文化祭もいいかな、と思つてずうつと見てきたんですけれど。保健の方で

手洗い指導をしつかりして。〇一五七が出ていた年なので、毎日のように保健委員を指導して、歌を歌いながら手洗いをするをした。当日になると、調理当番の係と朝六時くらいから来て、とにかく、食中毒がおきないようにと。小川先生・郡司先生がすごく協力してくれて。終わった後の後片付けのゴミ、生ゴミ。これがまた大変で。でも生徒は本当に一生懸命後片付けをする。いつもいつも感激していました。「生きる力」っていうのかな、しつかり世の中に足をつけて生きていける力を、みんなで協力するということを教わるのがこの文化祭だったのかな。後片付けもみんなですっかりやってた記憶があります。力を合わせるということがガオカの生徒は好きなのかな、と思いました。

司会 では体育祭は。

大和田 私は平成一〇(一九九八)年に来たんですが、翌年、生徒部で体育祭の係をやった。体育の先生が体育祭をやるんじゃないんです。やっぱり事前の準備が必要でし、それから多少練習もしておかなければならないし。それから、召集係。召集がキチンとされない限りは始まらない。そういうことで、体育祭までの年間の流れができていった。体育祭そのものはチアガールとかで盛り上がりましますね。

藤本 体育科が協力してくれない、ということはないんですよ。それまでは体育委員がやっていた。きっちり自分たちでやろうというのがなかったたので、そういうのをやめて、実行委員を集めてやろうか、というのが、私が来た年の一年目。とにかく、実行委員がどれだけやるか。その典型的なのがパン食い

競争。何年かに一回は顔を出してくる。パン食い競争やりたいって実行委員会が言ってくる。パンを買ってこさせ、じゃあどうやってパンに糸を付けるかでパンじゃダメじゃんということになる。じゃあドーナツでやるか、ということになり、口でやってみたら固くて糸がちぎれない。ホラダメじゃん、で納得してパン食い競争がつぶれるかと思つたら、実行委員は竹橋にあるドーナツ屋と、体育祭のための柔らかいドーナツを交渉してきた。

矢野 体育祭ではけっこう外に出て行ったりしていた。ジャージも何も決まっていなくて、私服が多かったから、私服でやっていた子もいたし。それが、北原さんの学年が二年生の時にTシャツを学年で作る、という時から、よくなつていった。その時の学年がちょうど新校舎が建つた時。

青田 チアは矢野さんの学年の時から。学年のジャージが決まっていなかった。来たばかりだったからどの学年か分からなかった。授業でも色んなジャージを来ていた。体育祭も一回解体した方がいいと思うんですよ。私が来た時にはある程度、大和田さんと藤本さんが続けてやっていた時期だったので、そこでお手伝いをしながら、体育科がまた入ってくる、という形になった。うちの実行委員形式というのはこれはすごくいいなと思う。実行委員の動きをずっといっしょになって見ているから、実行委員の長になつている生徒は、四月に入ると動き始めるんですね。

棚橋 生徒会の中から、文化祭も体育会も必ず担当がいますよね。ただ、まるっきり実行委員会だけだ

と集まらない。

大和田 私が来た年に、それまで九月にやっていた体育祭が六月になつたんですね。

司会 ありがとうございます。清水先生、通してですね、授業でも学校行事でも何か印象に残っていらつしやることがありましたら。

清水 授業のところ、私のときから授業観察が始まったわけですね。数学

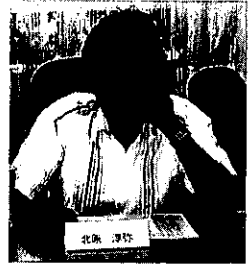


は習熟度でやっていて、きちんとまじめに多展開をやっているんですね。

数学の授業で教室に行く一回座ると途中で抜けるのも、で数学の授業はかなりしつかりと聞いていたんですよ。数学というのは長いこと離れていたんだけど、あの授業を聞いていて、また高校の数学がけっこう分かるようになった。生徒は一人一人聞いていてその点習熟度はよかつたな、と。それをもっと伸ばしていければもつともっといい学校になるのかな、と思います。学校行事は、文化祭にしても体育祭にしても、行事に関してすごくよくやっていたな、と。他の部分でもそういうテンションがあればよい。りいのかな、と。

部活動について

北原 テニス是最初なかつたんです。プレハブの時は一面を野球とサッカーとラグビーがいてそこにテニスが入る余地がなかった。そのころはサッカー部が強くて至るところすき間でサッカーをやつてい



た。それで都でベスト8。その中で部活を作って、いろいろありましたけれど、まあ、好きなことはやりますよね。部活をやっている子は、強くなりたいたいか、楽しみたいという子は一生懸命やっていますね。一昨日も、卒業生たちが、明日から合宿に行くんで、どうやって教えたらいいのか教えてくれというんで、日曜日なんですけど、広尾まで来てテニスをやった。

青田 うちでは陸上部はできないな、とグ

ランドを見た瞬間にそう思ったんですけど。とにかく、周りを走ったりすると近隣から苦情が来る。しようがないんで、不忍池まで降りて行ってそこで練習するようになったんですね。あと、グラウンド一周一五〇mのラインがギリギリとれるんですね。それを引いてもらって。日曜日とかグラウンドの空いている時にぐるぐる廻るんですね。まあ、一周一五〇でもトラックはなんとかできるのかな、と。直線で八〇しかないようなグラウンドでも東京都で二番か三番ぐらいになる選手はときどき出せるのかな、できるのかな、と。それはすごく工夫してやる、ということなんです。

藤本 本場に、試合の時間についていだけ、練習の時にいるだけだから偉そうなことは言えないんだだけ。

北原 小石川運動場がブレハブができた時に月に一

回できる、ということでも最初まったんですね。北村校長の時に、月に一回ではとても少ない、ということでも自分とあとPTA会長さんと校長さんとで文京区役所に行って、月に二回にしてみました。

棚橋 文化部では、私が来た時にはクラシックギターが全国一になってたんだけど、新井先生が熱心にされていて、ブラスバンドって言っちゃいけないんだっけ、吹奏楽に力を入れていて、練習しない日は元旦ぐらいしかかないのかしら、ぐらい練習されてました、旧校舎の時に。それから私と大出さんがやっているちっちゃい茶道部ですけど、小さいながらも学校説明会の時にやったり、その老人クラブに行くと、ボランティアのさきがけですね、お茶会でお茶を差し上げて。先生が向丘の卒業生の先生で、何もできない、座ることもできない生徒を、長〜い目で教えて頂いたんですよ。運動部と同じように他のクラブを学校行事なんかで位置づけて出番を作っている、てことがやりがいなんじゃないかと思いました。

清水 吹奏楽は最初三人だったんですね。

原田 いやいや一人だった。一人だったのを三人になつて。

清水 駒込学園と一緒にコンクールに出たりして金賞を取られたんですね。

矢野 部活を四月の段階でどっかに入らせますよね。部活でこう輝く子もいるわけです。グラウンドもなくてなかなか厳しい条件もあるんですけども、アルバイトをさせるようになると、勉強よりもアルバイトにいつちやうというのがあつて。部活止める



とアルバイトをして、生活も乱れてきてというのもあるんで、先生方も大変だとは思って、部活を盛んにしていくと大きいと思います。

北原 中学生呼んで部活体験させると良い。

南島 部活動を盛んにさせる、という話があつたんですけども、女子バレー部をつぶさなかつたのが、僕の貢献かな、というところ。アルバイトに行っちゃうにしても部活の場はある。学校に自分の場があるというのはすごいこと。今のご時世の中で彼女たちが一生懸命バレーボールを続けてくれた。今はともかくできるだけバイトをしないで勉強と部活というのを先生たちの力で。

司会 本日はありがとうございました。

多芸多才な向丘生

小俣 真理子

私が会社員から転職をして都立高校の非常勤講師を始めたのは、今から十五年以上も前のことですが、向丘が初めての学校でした。授業をしに行くたびに緊張し、分り易く教えることのできなかった当時ですが、それでも生徒は静かに聞いてくれました。思えばあのころの生徒は私より大人であたたかい目で見てくれました。時が過ぎ、私も大分老けましたが、昔も今も向丘はいろいろなタイプの生徒がいます。オタクっぽい子、まじめで生徒会の仕事などを一生懸命やる子、お茶目な子、ギャル系、さわやか系等々……。実習授業ではその本領が発揮されます。例えば、私が怒鳴りながら追いかけてくるのを期待して、調理実習用の酒ビンを持って廊下へ逃げたり、焼き鳥屋でバイトをしている生徒が、調理実習の時にクラスメイトに食べさせようと、前日の夜に自分で焼いた焼き鳥を何十本も持って来てしまい、皆で食べようと言われて困りました。被服実習の宿題を友達にお金を払ってやつてもらった生徒もいました。さすがにこの時は縫い目が途中からまったく違うので事情を聞き出し、厳重に注意しました。様々なタイプの生徒たちですが、共通しているのは思いやりを持った生徒が多いということでしょうか。風邪をひいた時など優しい言葉をかけてくれます。毎日精一杯生活している彼らが私にも示してくれる思いやり、この癒しに支えられ、私も今まで講師を続けることができました。できればいつまでも人間味溢れる生徒のいる向丘の講師をやつていけたらと思います。

(家庭科講師)

型破りな私の進路決定

浅川有理

私が大学進学を決意したのは、高校一年の秋のことです。当時私は囲碁を愛好しており、その過程で、早稲田大学に活発に活動している囲碁部（早稲田囲碁会）があることを知りました。そのころ多少実力もついてきたと思っていた私は、早稲田囲碁会の活動場所に向かい、学生と碁を打つことにしました。しかし結果は、完膚なきまでの敗北に終わり、私は帰って囲碁会のことを調べました。そこでわかったのは、早稲田囲碁会が団体戦・個人戦問わず何度も全国優勝しているという事実でした。私は自分の視野の狭さに気づき、そして早稲田囲碁会に入るべく、受験を決意しました。

客観的に見れば不可能に近い挑戦でしたが、私は諦めませんでした。つらいときでも「早稲田で囲碁を打ちたい」と思うとやる気が出てくるのです。一般的な受験生から見れば、私の考え方は奇異に映ることでしょう。しかしたった一日の出来事が人生を変えることもあり、そしてこの向丘高校の自由な空気が「自由にものを考える」私を育て、現在でも私の大学生活の礎になっていると確信しています。

(第五十五期・平成十五年卒 早稲田大学四年)

Free Growth

遠藤 友康

向丘高校と共に過ごした三年間はとても有意義な時間であり、多くのことを学びました。ガオカの自由な校風は表面だけを見れば

「髪の毛を自由に染めること」や「自由な服装で登校できる」といった部分に目がいきがちですが、裏には隠されたメッセージがあると思います。

先に述べたようにガオカの校風は「自由」です。この「自由」という言葉は常に人類が理想として追い求めているものですが、多くの人々は自由を上手に活用することができないと思います。特に日本という国は幼少期から幼稚園や小学校などで集団行動の大切さを徹底的に教え込まれます。そのため、自由を手に入れたときにも結局、今までの慣習などに頼った行動を取ることが多いです。しかしガオカの「自由」は、「個性を磨くための自由」であり、「自己成長を促すための自由」であると思います。ガオカでは体育祭や向陵祭などの主要な学校行事の多くは生徒自身からなる実行委員会によって運営されます。私も在学中に、体育祭実行委員や文化祭実行委員などを担当し、自分たちの手で自由に学校行事を運営しました。そのことにより、普段の授業では学ぶことのできない多くのことを経験し成長することができました。また、向陵祭では多くの生徒がダンスやバンド演奏、さらにはフアッションショーなどで自分たちの個性を自由に表現していました。このような経験をもとに、私の同級生では歌やダンスの第一線で活躍している方も多数おります。ガオカは「自由な高校」とよく言われますが、その自由とは生徒の個性を伸ばし成長させる為のものであり、今後向丘高校はそのような高校であり続けてほしいと思います。

(第五十五期・平成十五年卒 大学生)

私の過ごした向丘

青羽 修二

私のイメージする向丘はなんといっても自由です。私は高校に入ったら髪の毛の色を変えたいと思いこの学校に入学した一人でした。高校時代は、向丘の特徴である自由を活かし、のびのびと楽しく生活してもらい、とても満足できました。

私は先日、教育実習生として向丘で実習を行う機会がありました。そこで感じたことは、生徒は変わらずにのびのびと充実した学校生活を送っているということです。今の時代、悩みを抱える生徒や、不登校気味の生徒が多いといわれていますが、この学校は文化祭や体育祭を見ても、活発に行動する生徒が多いと感じました。それと同時に、高校時代に過ごした私自身の思い出が、幾つも思い出される実習となり、高校時代に学んだことや、楽しかった思い出は一生の宝になると再認識できました。

学校生活の中で、自由を押し出すのは教育として、いかがなものかと考える人もいると思いますが、私は決して悪くないと思います。高校を卒業してすぐに、卒業旅行をしたのですが、もちろん、引率する先生はいません。しかし、自分たちでルールを課し、規制することで、何の問題もなく、旅行を終えたときは、この学校の生徒の自主性、自制心の強さを感じることができました。

これからも自由を活かした校風を作って欲しいと思います、いつ訪れることになっても、向丘の生徒は活発な生徒が多いと思わせる学校で在り続けて欲しいです。

(第五十六期・平成十六年卒 東京電機大学 四年生)

吹奏楽部で過ごした三年間

土屋理美

私が向丘に入學したのは六年前の春。これから始まる高校生活に胸がいっぱいだったのを覚えています。最も楽しみにしていたことは、中学からやっていた吹奏楽部に入って毎日部活に明け暮れることでした。しかしガオカの吹奏楽部は当時廃部寸前で、まさか吹奏楽部がないなんて思っていなかった私は、予想外のことに大きな衝撃を受けました。

それでも不思議なことに、私を含め三人の新生が入部しました。そして三人で活動していました。活動といっても、雑談↓練習↓雑談↓練習↓雑談↓雑談……といった内容でしたが、私はとても楽しくやっていました。具体的には、個人的にソロ用の曲を練習したり他校と合同で合奏したりしていました。二年生になって数名の新生が入部してくれましたが相変わらずの崖っぷちぶりで、三年生になってようやく“部活”と呼べるようになってきたような気がします。コンクールにも出場することができ、幸運にも金賞をいただきました。今まで吹奏楽を続けてきて良かったと思えた瞬間でした。また、向陵祭などでもとても良い思い出ができ、その思い出を胸に今音楽大学で楽しい学生生活を送っています。

現在のガオカの吹奏楽部は、とても人数が増えていてビックリしました。ちよっぴりうらやましいくらいでした。私は卒業して三年以上経ちますが、これからも母校の吹奏楽部を応援していきたいと思えます。

(第五十六期 平成十六年卒 武蔵野音楽大学学生)

卒業後

中村 佑樹

私はこの向丘高校を卒業して三年が経ちました。そして今年度、向丘高校創立六十周年という記念すべき年に教育実習生として再び母校である向丘高校に来る事ができました。

私達がいたころと変わらず生徒たちは元気で、校内は活気に満ち溢れていました。それ故の問題も数多く存在しますが、私自身としてはこの活気ある生徒がいてこそ向丘高校だと思っているので少し安心しました。また、卒業して三年しか経っていないにもかかわらず、私たちが在学中にお世話になった先生方はほとんどおられず、短くも長い時間が経ったのだなと痛感しました。

そんな時に向丘高校は本年度で創立六十周年を迎えるという話を聞きました。三年間でも色々な変化が起こっているのに、その何十倍という永い年月を「教育」という人が生きていくために必要な知識・技術を身に付ける場として変わらず存在してきていることを自身の母校として大変誇りに思っています。

最後に、向丘高校は僕の数少ない母校の一つです。そして今まで何千人、何万人と卒業した人々の大切な母校です。現在、日本国内では少子化問題の影響によって多くの学校が統合されたり廃校になっていきますが、向丘高校はこの先も百周年、百五十周年と永い間、私達の「ガオカ」として在り続けてほしいと願っています。

(第五十六期、平成十六年卒 埼玉工業大学 応用化学科)